

教育委員会会議録要旨（令和5年第19回）

定例会	日 時	令和5年10月10日（火） 午後1時30分
	場 所	明石市役所分庁舎 4階教育委員会室
出席者	委 員	北 條 英 幸 教 育 長 橋 幸 男 委 員 柏 木 輝 恵 委 員 川 本 まり子 委 員 橋 本 彰 則 委 員
	事 務 局	長田局長 田辺室長 北迫次長（指導担当） 新田次長（給食担当） 中田次長（明石商業高校福祉科準備担当）兼明石商業高校 福祉科準備担当課長 西山総務担当課長 小島学校教育課長 三ノ浦総務担当企画総務担当係長

次 第

○議案

議案第 29 号 明石市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例施行規則制定のこと
と

○報告事項

1. 2023 年度（令和 5 年度）全国学力・学習状況調査結果について

開催

（北條教育長）

それでは、ただいまから、令和 5 年第 19 回定例会を開会します。

本日の署名委員は、橋本委員をお願いします。

前回の審議事項は、議案第 28 号「明石市立幼稚園園則の一部を改正する規則制定のこと」について審議し、原案のとおり可決されています。ご確認ください。

まず、本日の議事についてですが、報告事項 1「2023 年度（令和 5 年度）全国学力・学習状況調査結果」については、「その他傍聴を認めることにより、教育行政の公正若しくは円滑な運営に著しい支障を生ずるおそれがある事項」として、教育委員会会議規則第 13 条第 4 号により非公開とし、最後に審議してよろしいか。

（各委員）

異議なし

（北條教育長）

報告事項 1 を非公開といたします。

それでは、本日の審議を始めます。

まず、議案第 29 号「明石市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例施行規則制定のこと」について、説明をお願いします。

（西山課長）

議案第 29 号「明石市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例施行規則制定のこと」について、ご説明をさせていただきます。

まず、本規則の「制定の趣旨」でございますが、本市におきましては、行政手続きのオンライン化を推進するため、「明石市情報通信技術を活用した行政の推進に関する条例」というものを定めております

が、その施行に必要な事項につきましては、教育委員会をはじめ各執行機関で規則に定める必要があります。

このたび、明石市として本格的に行政手続のデジタル化を推進する方針が決定されたことを踏まえまして、教育委員会におきましても、各種行政手続がオンライン化できるよう、規則を定めるものでございます。

続きまして、「条例の概要」ですが、これはすでに制定済みの条例でございます。全文を4ページから7ページに添付しておりますが、ここでは概要を抜粋してご説明させていただきます。

特徴は大きく2点ございまして、まず、「各種の行政手続をオンラインで行うことができる」ということ、次に、「手続をオンラインで行う場合は、次のとおり行政手続を簡素化できる」ということで、「①署名ではなく個人番号カードで個人の確認ができる」「②個人番号の利用により、住民票、登記簿等の添付書類の省略ができる」「③手数料の納付について、電子決済することができる」といったことで、簡素化できることを条例で示しております。

次に、「規則の概要」で、こちらが今回、審議いただく内容となっております。

先ほど説明しました条例に添った規則でございますが、教育委員会の規則におきましては、市の規則の例によることを定めるシンプルな規則を想定しております。なお、市の規則全文は8ページから10ページに添付しておりますが、ここではその概要のほうを引き続きご説明させていただきます。

まず、「(1) オンライン申請及び電子決済の方法」としましては、条文第3条、第4条にありますが、それぞれの手続きで、市が使用す

るシステムを活用した入力でありますとか、市のシステムに対応した決済方法によることが定められております。

次に、「(2) 本人確認をするべき特段の事情があるなどオンライン申請ができない場合」といたしまして、第5条に示しております。

本人確認すべき場合、書類の原本確認をするなど、特段の事情がある場合という形で定めております。

「(3) 申請者による希望がある場合など行政からの通知をオンライン化できる条件」につきましては、第6条、第7条にありますが、行政側がしっかりと電子記録を残すこと、またその通知には識別番号等を使用することや、本人がオンライン通知を希望する旨の届け出を出されて、それをしっかりと受け取るなど、必要な手続きを示されております。

その他に必要な事例の一例としましては、第9条にお示しておりますが、縦覧手続き等を行う際、当該事項を、インターネットを利用しての情報の表示や、市役所、事務所等で端末に画面表示して、それをご覧いただけるような縦覧対応をすることで、電子化されるということと定めております。

こうした内容につきましては、市全体で統一した運用を行うものであり、市の規則に沿うと同時に、市の規則が変更された場合にも即時、反映できるようにするものでございます。

最後に、「行政手続きオンライン化の方針」でございます。

明石市におきましては、2025年度までにオンラインで申請可能な手続きを200以上に拡大する方針を掲げております。

大きな方向性といたしましては、国から優先的にオンライン化を推進すべきとされている業務を皮切りといたしまして、市独自の考えと

して、なるべく多くの市民の負担軽減、利便性向上に繋がるものなど、業務の選定を行っているところでございます。

その中で、教育委員会の取組案といたしまして、ページ下段に一例を示しておりますが、通学区域外の就学申請でありますとか、就学援助の申請事務、また、後援名義の申請などにつきまして、オンライン化できないか検討を進めているところでございます。

説明は以上でございます。ご審議賜りますようよろしくお願いいたします。

(北條教育長)

何かご意見やご質問などはありますでしょうか。

(柏木委員)

教育委員会としてオンライン化すべきものと、しないでおこうという線引きはどういった方針や考えで判断されてらっしゃるのでしょうか。

(西山課長)

まず、市のほうが大きな方針としまして、多くの市民の方、受益が多いものというところ、具体的には 1,000 件以上の申請があるものという基準が設けられておりまして、そういった数が多いものについて、まず電子化ができるかどうかというところを、それぞれの事務で確認をしているところでございます。その中で、一定の障害が少ないであろうものを、まず優先的に行っていこうという形で、今回お示しさせていただいた区域外就学の申請につきましても、添付資料がかなり少ないものになりますので、そういったものから行っていこうと考えております。

また、就学援助につきましては、所得情報といった関係の添付資料が多いものではあるのですが、国のほうが推進すべき事務と掲げておりますので、こちらのほうもしっかり行っていこうと思っております。

ですので、できないものというよりは、できるものを出して、それを順次進めていき、広げていこうという考えで進めております。

(川本委員)

高齢者にとっても便利なものではあると思いますが、そのためにはセキュリティといったところの不安を解消しないといけないと思いますがいかがでしょうか。

(西山課長)

高齢者にとってもなかなかハードルが高く、セキュリティと同時に、難しい、取っつきにくさといったところがあると思いますので、そのあたりは市全体の共通システム等を使って、しっかりと広報すると同時に、チラシを配るだけではなく、分からない人にはご説明できるような体制を取ることが大切と考えておりますので、導入に向けてそのあたりの課題整理をしっかりと行っていきたいと考えております。

(橋本委員)

明石市の行政として情報通信技術を活用していくということによって、各執行機関で即時定めていきたいと思いますという中で、教育委員会でということだと思います。

それはそれとして、例えば、ICTの時代ですので、我々と直接関係のある文部科学省といったところから、こういうような形で業務省力化をするようにといったガイドラインみたいなものがあるのでしょうか。

あと、これと関連させるというような考え方があるのかどうかを教えてください。

(西山課長)

まず、国等から一定の方向性ということがガイドラインで示されているかというところですが、「4 行政手続きオンライン化の方針」の①自治体が優先的にオンライン化を推進すべきとされている業務につきまして、具体的に24の手続きについて例示されております。

それにつきまして、こういった懸念があるのかというような各自治体からの吸い上げと、それに対する回答というのが一定程度示されてきております。これも順次、続いていっているのですが、国が推進すべき業務につきましては、そういった形で一定の方向性が示されつつある状況でございます。

(川本委員) 少し漠然としているので、その 24 手続きの内容を教えてください。

(西山課長) 全てを覚えていないのですが、介護保険関係の業務や、教育でいきますと、先ほど申し上げた就学援助の関連業務につきましては、この 24 の業務に例示されているところでございます。

(北條教育長) 議案第 29 号を承認としてよろしいでしょうか。

(各委員) 異議なし

(北條教育長) 議案第 29 号を承認いたします。

それでは、報告事項に移ります。

それではこれより非公開審議となります。

報告事項 1「2023 年度（令和 5 年度）全国学力・学習状況調査結果について」、説明をお願いします。

(小島課長) 報告事項 1「2023 年度（令和 5 年度）全国学力・学習状況調査結果について」ご報告いたします。

本調査の目的は、「①全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること」、「②学校における個々の児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること」、「③そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること」です。

平均正答率だけに着目するのではなく、質問紙調査の結果と併せもって、本市、学校において、全国・自治体と比較した場合に、どのよう

な課題や強みがあるのか、どのような改善を行っていくことが必要な
のか、把握・分析を行い、教育施策や指導の改善に向けて活用してい
くよう取り組んでいるところでございます。

平均正答率に一喜一憂するのではなく、本調査目的の課題を把握
し、改善に生かしていきたいと考えております。

1 ページから 4 ページは調査結果概要及び概況です。

4 ページは、未実施だった令和 2 年度を除く各教科における過去 5
年間との比較です。英語につきましては、前回実施されました平成 31
年度との比較です。

英語は 4 月 18 日に国語・算数（数学）とともに、「聞くこと・読む
こと・書くこと」の調査を実施しました。また、英語の「話すこと」
調査につきましては、4 月 19 日から 5 月 26 日にのうち、1 日が指定
され、各校で一人 1 台タブレットを活用し、実施いたしました。

5 ページから 25 ページは各教科の分析になります。

各教科とも、1 ページ目上段の表は、調査を受けた児童生徒数及び
平均正答数と平均正答率、1 ページ目の下段は、正答数分布グラフを
明石市・兵庫県・全国とともに掲載しております。

平均正答率につきましては、平成 28 年度から都道府県、市町村別
については整数値のみ示しています。小数点以下の微差に注目し、序
列化や過度な競争が生じないように、教育上の効果や影響等を考慮する
ため、明石市におきましても、学校別の正答率等は公表しておりませ
ん。

2 ページ目上段はレーダーチャートグラフです。

各教科、学習指導要領の領域についてレーダーチャートで示し、下
段には領域別・評価の観点別・問題形式別について、それぞれ平均正

答率を示しています。

各教科 3 ページ目からは、特徴的な問題について分析を行った結果でございます。

国語と算数・数学については、小学校・中学校ともに特徴的な問題として、「平均正答率が低い問題」から 2 問、「無解答率が高い問題」から 1 問、「平均正答率が高い問題」から 1 問の計 4 問について、「①分析結果と課題」「②学習指導にあたって」について記載しています。

今年度につきましては、単に知識を問う問題ではなく、「思考・判断・表現」に関する問題に着目して分析しております。

英語につきましては、各領域から特徴的な問題として「平均正答率が低い問題」、「平均正答率が高い問題」から 1 問ずつ挙げ、分析しました。その中で「書くこと」の設問については、全 5 問中 1 問のみが「思考・判断・表現」に関する設問であったため、「平均正答率が低い問題」のみを分析しました。

26 ページから 41 ページは【学校質問紙調査】回答集計の抜粋です。

質問項目の選定にあたっては、大項目として「生徒への指導、様子について」「教育課程について」「教職員研修について」「ICT 機器について」「小中連携・地域連携について」に着目いたしました。

これらの質問項目は、学校から見た学習に対する児童生徒の様子や教育課程など教育活動における原点に立ち返る項目として抜粋するとともに、現在、ICT 機器の活用や小中連携、地域連携など本市において重点的に進めている取組について抜粋しました。

42 ページから 60 ページは【児童生徒質問紙 回答集計・クロス集計】です。

質問項目の抜粋にあたっては、「非認知面」にかかる内容に着目し

ています。また、加えて生活習慣や学習環境、自己有用感等に着目し、児童生徒の学力との相関関係について分析しました。

明石市の分析結果につきましては、10月6日に小・養護学校校長会で説明しました。10月13日に中学校校長会で説明をする予定にしております。

分析結果の資料につきましては、10月中旬を目途に明石市教育委員会のホームページにアップする予定でございます。

(北條教育長) 10月中旬にホームページにアップする内容はどれになるのでしょうか。

(小島課長) 確認いたします。

(北條教育長) 何かご意見やご質問などはありますでしょうか。

1ページを見ますと、全国並みということですね。

(小島課長) そうですね。

極端に劣っている部分はないのですが、やはり「書く」ことがなかなか難しいようです。

問題に関しましても、以前のような一問一答の問題ではなく、聞いて、考えて、書かないといけないので、書くことはなかなか難しい部分もあります。そこは明石の子どもたちにとりましても、国語だけではなく、算数・数学につきましても、言葉で説明しなさいとありますし、今回、中学校は英語があったのですが、英語はなかなか難しく、「書く」ことに関しましては今後の課題だと感じました。

(橘委員) 2ページに、「4 本市の今後の対応」とあり、(1)から(5)まで書いてある事柄については、もちろん賛成なのですが、非常に大きな書き方になっているような気がいたします。

先ほどご説明がありましたことに関連して、例えば、5ページにレ

一ダーチャートグラフがあるのですが、明石市と兵庫県と全国とが、ほとんど変わらないようになっております。その点では、先ほどの説明どおりであって、劣っているということではないのですが、「書く」ことについて、全国が低ければ、本市も低くてよいという問題ではなくて、明石市はこういう取組をしましょうというような、本市の取組として、特別、力を入れていくべき内容、あるいはその方法みたいなものがあってしかるべきではないかと思えます。

そのあたりのことについて、本市の取組というところで、むしろ細かいところの一つ、二つくらいは取り上げて、特にこれを重点的に行っていくというものがあってもよいのではないかと思えますが、いかがでしょうか。

(小島課長)

おっしゃるとおりだと思います。

学校現場ではここ数年、振り返りということで、授業の中で「めあて」を書いて、小学校、中学校ともに、どの教科でも振り返りを書かせるということをしております。

これは一つの例ではありますが、それ以外にも示せるようなものがありましたら、「書く」訓練、練習ということで考えていきたいと思っております。

(橘委員)

例えば、あかし教育研修センターのようなところでも、そういったことを特別加えるとか、あるいは先生方のグループで、このことについて研修、研究をしていただくというようなものがあると、それが刺激になって、各学校での取組みたいなものがあるかと思えます。

そういったような具体的な取組といったようなものがあればよいと感じますので、今後、また考えていただければと思います。

(橋本委員)

全国と兵庫県、明石市と比較しながら、明石の良いところ、改善す

べきところを見ていくということに関しては、比較しながら組み立てていけているというところはあると思いますし、そういうことをしていくのにわかりやすい資料だと思います。

しかし、どこができていないのかが大事であって、国や県もできていないからよいということではなく、どこもできていないのであれば、明石で何かをして、先駆ける的なことをするというようなモチベーションがあってもよいのではないかと思います。

現場の先生方が何か意見を出し合って、それが少しでも改善していけば、教育研究も意味があるものになると思います。そういった取組の姿勢と、その具体化が必要だと感じますので、あかし教育研修センターと一緒に、工夫していただきたいと思います。

(川本委員) 「学校質問紙調査」がありますが、その回答はどなたがされるのでしょうか。

(小島課長) この質問紙に関しましては、管理職が回答いたします。

(柏木委員) 「児童生徒質問紙調査」の分析は、ここには挙がっていないということよろしいでしょうか。

ここには挙がっていないですが、分析を含めて公表されるということよろしいでしょうか。自己有用感といったことで分析しているといったことをおっしゃっていたので、どこに記載があるのか教えてください。

(小島課長) 42 ページ以降にこの質問紙が載っているのですが、分析について数値を載せておりますが、分析結果につきましては載せておりません。

今後、どのようにこれを生かしていくかということですが、公表するとかではなく、地域性や特徴がございますので、学校に見てもらっ

て、それぞれの学校にどのような特徴があるかといったようなことを参考に子どもたちを分析してもらおうということになっています。

(柏木委員) 「書く」部分について少し弱いのではないかというようなお話しがありました。この質問紙調査の結果では、集計されているだけでしょうか。

(小島課長) 私のほうでも目を通したのですが、極端にはみ出ていることはないのですが、例えば、12番「学校に行くのは楽しいと思いますか。」とあり、明石市では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合計しますと、小中学校ともに兵庫県、全国の結果より少し高い数値になっております。

明石市でも不登校の問題がいろいろあるのですが、子どもたちは学校へ行くのが楽しいと感じている子どもが多いということで、人間関係づくりや学校での教員の指導のほうで工夫している成果も出ているのではないかと感じております。

(柏木委員) 「学校に行くのが楽しい」と思っている子どもが多いのかなという印象を受ける一方で、「自分と違う意見について考える」ことについて楽しいとは思っていないというところがあり、その下の「友達関係に満足している」が多いところで、関係性としては良好な関係であろうとは考えられますが、一方で、自分の意見や個性を大事にできているかということ、そうでもなかったりするもので、それぞれが違うということを受け入れ、楽しいと思えるような工夫をしていただければよいのではないかと思います。

(北條教育長) 各種データ集計の3ページ「中学校別の平均正答率」を見ますと、高丘中学校について、小中一貫教育で英語に力を入れており、ALTを配置している関係で、例えば平成31年と令和5年度の英語を比較す

ると、非常に良くなっている印象を受けますが、いかがでしょうか。

(小島課長)

おっしゃるとおりで、点数が出る前に、担当者に高丘の生徒たちはどうかということをお話しておりました。そうしますと、ALTが常駐しているということで、普段から英語を使ってALTの方と話しをし、生徒からも話しかけることも多いということでした。

高丘中学校の英語に関しましては、平均正答率が少し上がっているかと思います。

(北條教育長)

特に「話すこと」については、他の中学校と比べても高いと思います。そのあたりは、やはりALTの影響が大きいでしょうか。

(小島課長)

高丘中学校のALTは男性の方なのですが、非常に子どもたちと良い関係を持っているように感じます。距離も、近すぎず遠すぎずという感じで、生徒たちも非常に親しく話しをしているようです。

もちろん、ALTの方は日本語がわかるのですが、生徒たちは英語を使って話しをよくしていると学校から聞いております。

(川本委員)

英語が小学校から始まるようになって何年か経ちましたが、それがよかったかどうかというような分析は、文科省でされていて、こちらにおりてきているようなことはあるのでしょうか。

(小島課長)

具体的に数値でおりにきていたりといったことはないのですが、5、6年生は教科化になりましたので教科書があります。ただ、あまりかっちりしますと英語嫌いになってしまいますので、そのあたりは気を付けて、英語をコミュニケーションの手段の一つとして考えております。

高丘小中一貫教育校以外の明石市の小学校に関しましては、学級担任も英語の授業を行っており、3、4年生は外国語活動で少しでも外国語に親しむということを目的としてやっておりますので、数値で出

すということはしておりませんが、異文化に慣れ親しむということで活動を進めております。

(川本委員)

異文化に慣れ親しむということで行うことはよいと思いますが、例えば、「英語が好きですか」といったような質問を入れていただけたら、前より好きになっているかどうかというような議論ができるのではないかと考えております。

(北條教育長)

以上で本日の議事は全て終了いたしました。

以上をもちまして、第19回定例会を終了いたします。

(14 : 10 閉会)